

Nareru Group

プロ人材に、なれる。成長社会に、なれる。

2025年10月期 決算説明資料

2025. 12. 12



株式会社ナレルグループ | 東証グロース | 9163 |

- 売上収益は、在籍人数・稼働人数が着実に伸長したことにより、増収を達成
- 採用プロセスの見直しと積極的な採用投資が奏功し、下期採用人数は回復
- 採用投資に加え、営業・採用の基盤強化である成長投資を優先した結果、減益
- 期末配当は、当初計画通り、60円（中間配当55円とあわせて、年間配当115円）

2025年10月期 連結業績概要

売上収益

24,158百万円

(前期比+11.8%)
(計画比 △5.8%)

営業利益

2,827百万円

(前期比△9.1%)
(計画比△14.6%)親会社の所有者に帰属する
当期利益

2,086百万円

(前期比△4.6%)
(計画比△10.5%)

期末配当

60円

中間配当55円と合わせて
年間115円(前期比+5円)

2025年10月期 ワールドコーポレーション主要KPI

在籍人数^{*1}

3,687人

(前期比+13.8%)
(計画比△3.6%)稼働人数^{*2}

3,136人

(前期比+11.3%)
(計画比△6.4%)稼働率^{*3}

92.6%

(前期比△1.6pt)
(計画差△2.5pt)契約単価^{*4}

519千円

(前期比 +9千円)
(計画比△3千円)

採用人数

1,985人

(前期比+10.0%)
(計画比 +0.4%)退職率^{*5}

31.1%

(前期比+2.0pt)
(計画差+3.6pt)

(*1) 在籍人数:2025年10月度の在籍人数 (*2) 稼働人数:2025年10月期における稼働人数の月次平均値 (*3) 稼働率:2025年10月期における稼働人数/同期間における在籍人数(研修中の技術者を除く)

(*4) 契約単価:稼働人数:2025年10月期における契約単価(残業代は除く)の月次平均値 (*5) 退職率:2025年10月度の退職率(退職率=過去12ヶ月間の退職者数/(12ヶ月前の月末在籍人数+過去12ヶ月間の採用者数))

2025年10月期 決算概要

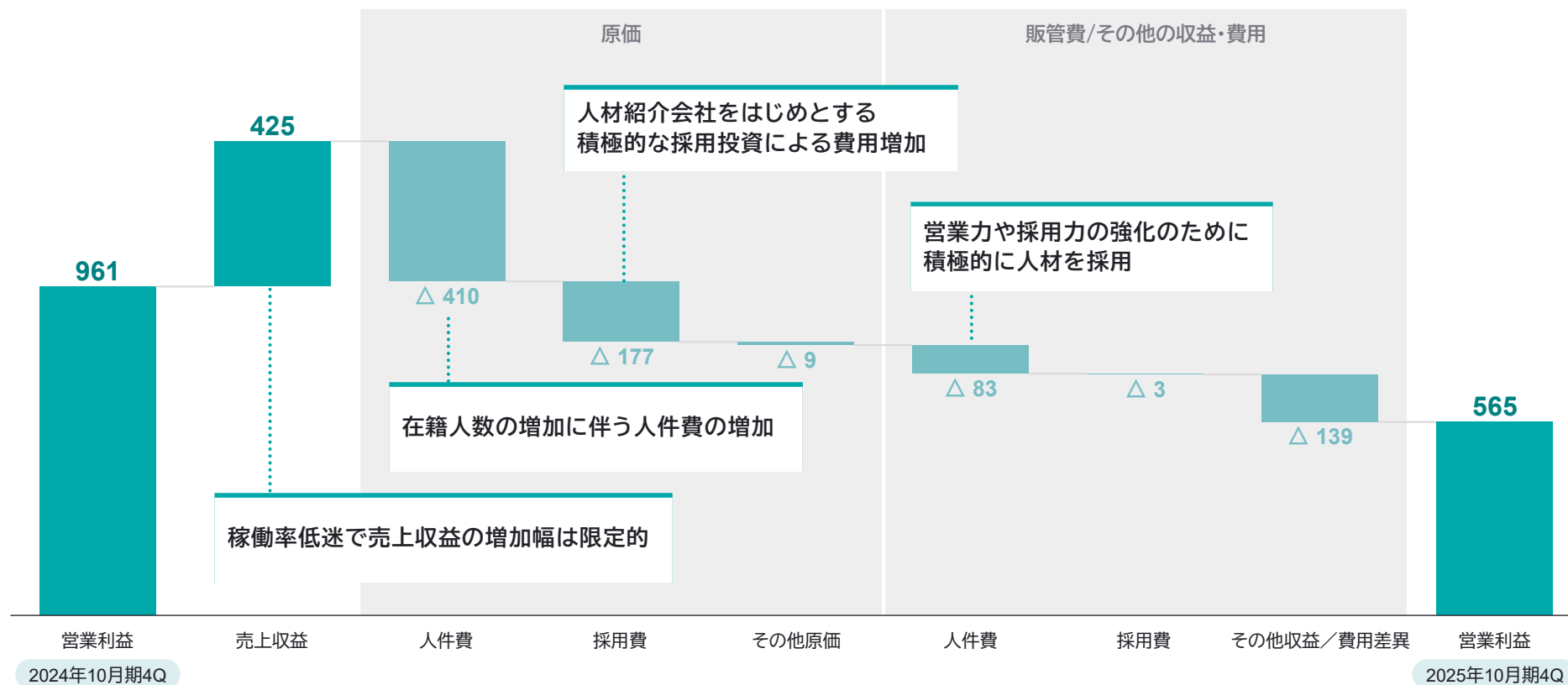
- ・ 4Q(8月～10月)の売上収益は、技術者の稼働人数の増加により、前年同期比**+7.3%**の増収。一方、将来の収益基盤に向けて採用投資をはじめとした成長投資を優先したことから、営業利益は**△41.2%**の減益
- ・ 通期の売上収益は**242億円(前期比+11.8%)**、営業利益は**28億円(同△9.1%)**
- ・ 期初計画に対しては、下期に成長投資を優先したことから計画未達

	第4四半期(3ヶ月)			通期			通期計画	
	2024年 10月期 4Q実績	2025年 10月期 4Q実績	前年 同期比	2024年 10月期 実績	2025年 10月期 実績	前年 同期比	2025年 10月期	達成率
単位:百万円								
売上収益	5,807	6,232	+7.3%	21,608	24,158	+11.8%	25,650	94.2%
売上総利益	1,683	1,510	△10.3%	5,940	6,237	+5.0%	6,860	90.9%
売上総利益率	29.0%	24.2%	—	27.5%	25.8%	—	26.7%	—
営業利益	961	565	△41.2%	3,110	2,827	△9.1%	3,310	85.4%
営業利益率	16.6%	9.1%	—	14.4%	11.7%	—	12.9%	—
税引前当期利益	947	551	△41.8%	3,059	2,758	△9.8%	3,220	85.7%
親会社所有者帰属当期利益	698	488	△30.1%	2,187	2,086	△4.6%	2,330	89.5%

- 4Qの売上収益は、**+425百万円**の増収(前年同期比**+7.3%**)。稼働人数は着実に増加するも、稼働率が伸び悩む
- 一方、積極的な採用投資により、4Qの技術者の採用数が計画を超過したことなどから、原価内の人件費および採用費が増加。また、営業・採用部門の増員により、販売費及び一般管理費も増加
- 以上の結果、4Qの営業利益は**△396百万**の減益(前年同期比**△41.2%**)

営業利益の差異要因

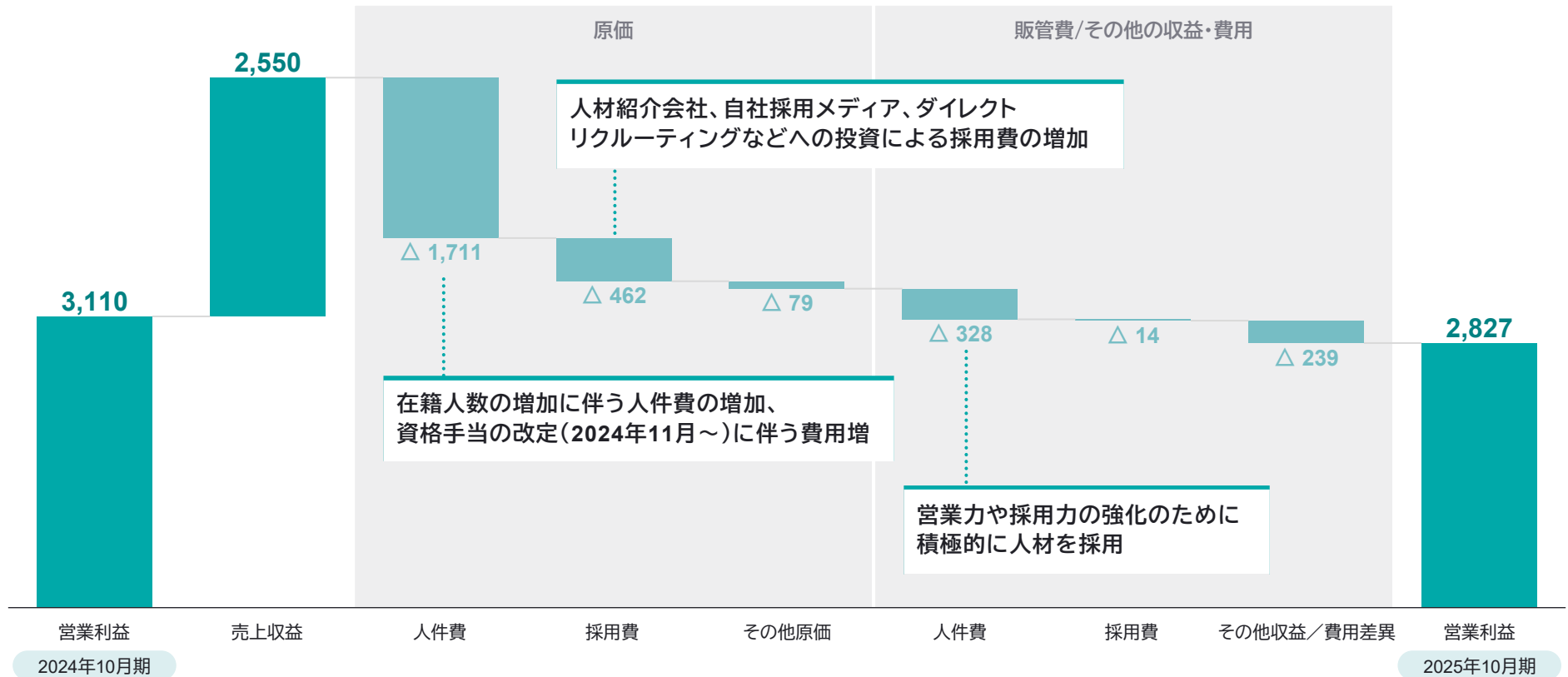
単位:百万円



- 売上収益は、在籍人数・稼働人数が着実に伸長したことにより**+2,550百万円**の増収
- 一方、在籍人数による人件費増に加え、積極的な採用投資により原価が増加。また、営業・採用部門の増員により、販売費及び一般管理費も増加
- 以上の結果、通期の営業利益は**△283百万**の減益(前年同期比**△9.1%**)

営業利益の差異要因

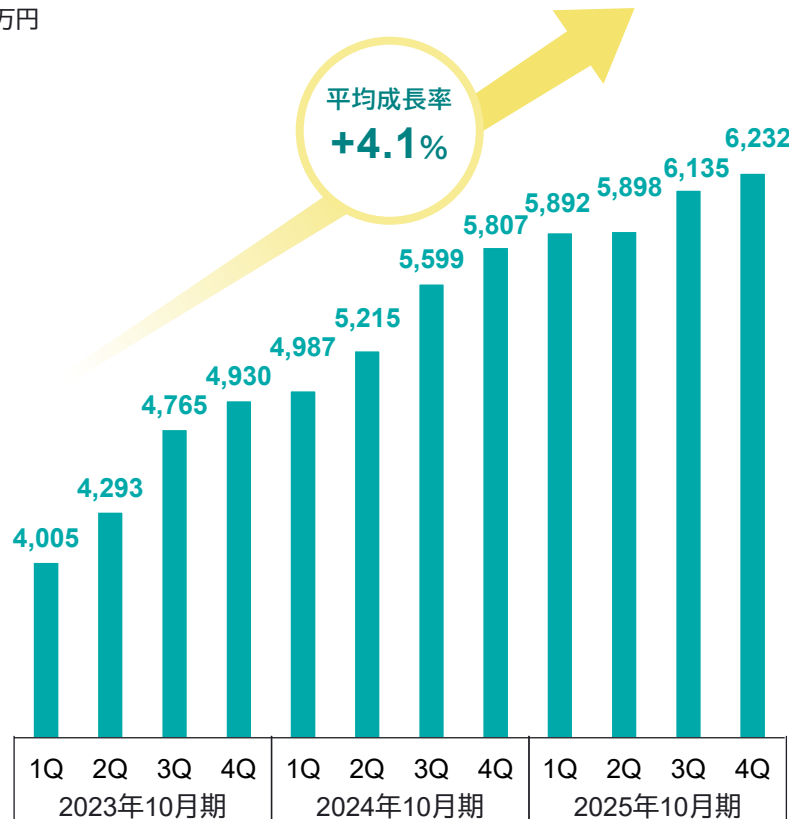
単位:百万円



- 四半期の売上収益は過去最高を更新したものの、売上総利益・営業利益は前年同期比を下回る

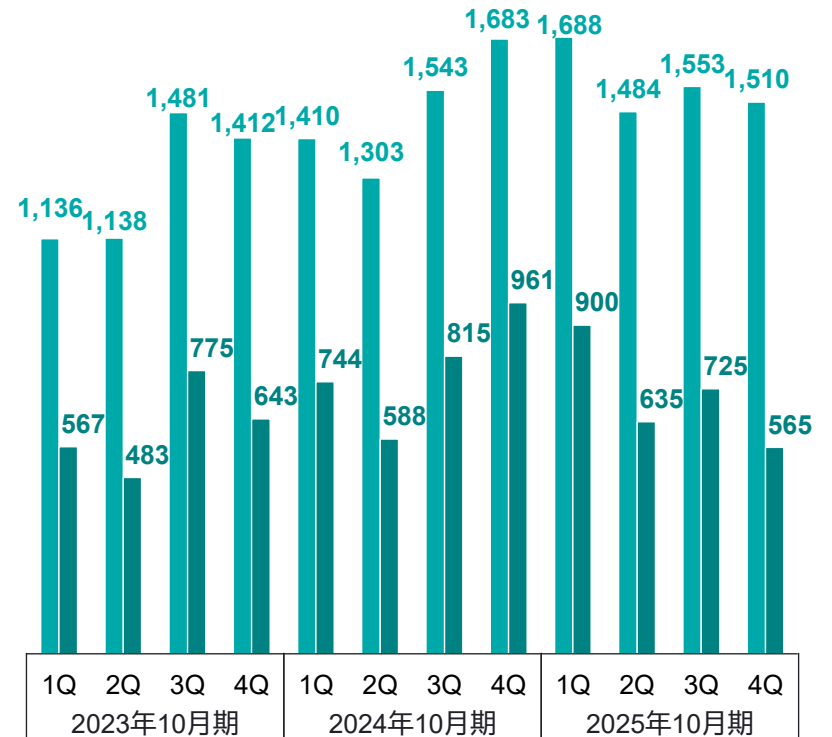
四半期売上収益

単位:百万円



四半期売上総利益・営業利益

単位:百万円 ■ 売上総利益 ■ 営業利益



- 建設・ITソリューション事業ともに、技術者の稼働人数が増加したことを背景に、2桁の増収
- 売上収益:建設ソリューション事業 **+11.9%**、ITソリューション事業 **+11.2%**
- 営業利益:建設ソリューション事業 **△13.8%**、ITソリューション事業 **△8.2%**

単位:百万円	通期(12ヶ月)			
	2024年10月期 実績	2025年10月期 実績	前年同期比	
建設ソリューション	19,347	21,642	+2,295	+11.9%
ITソリューション	2,261	2,515	+254	+11.2%
売上収益合計*1	21,608	24,158	+2,550	+11.8%
建設ソリューション	2,607	2,247	△360	△13.8%
利益率	13.5%	10.4%	△3.1pt	—
ITソリューション	147	135	△12	△8.2%
利益率	6.5%	5.4%	△1.1pt	—
調整額*2	355	444	+89	+25.0%
営業利益合計	3,110	2,827	△283	△9.1%

(*1) 内部取引消去後

(*2) 調整額は、セグメント間取引消去や株式会社ナレルグループに対する経営指導料など

- 配当金の支払い及び借入金の返済があったが、現金及び現金同等物は前期末比で約3億円増加し、純有利子負債はゼロに近い水準に
- 利益剰余金が増加したことから、のれん比率も低下し、1倍を下回る**0.97倍**
 ※当社グループの「のれん」に関する説明を9ページに記載しています

単位:百万円	2024年10月期 (24年10月末)	2025年10月期 (25年10月末)
現金及び現金同等物	4,516	4,822
営業債権	3,204	3,366
その他の流動資産等	205	280
流動資産合計	7,926	8,469
有形固定資産	178	211
使用権資産	597	757
のれん	14,074	14,074
繰延税金資産	508	681
その他の非流動資産等	332	367
非流動資産合計	15,690	16,092
資産合計	23,617	24,562

親会社所有者帰属持分比率	56.9%	58.9%
純有利子負債*1	1,054	34
のれん比率*2	1.05倍	0.97倍

(*1) 借入金(流動)+長期借入金-現金及び現金同等物

(*2) のれん/資本合計

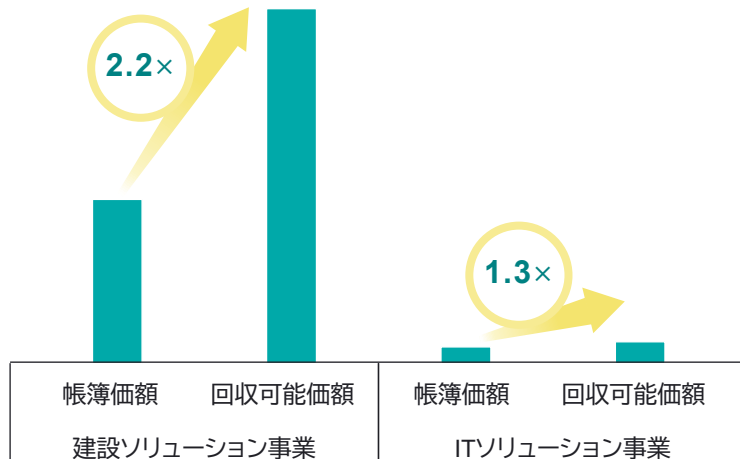
単位:百万円	2024年10月期 (24年10月末)	2025年10月期 (25年10月末)
借入金(流動)	2,714	2,714
リース負債(流動)	227	285
その他の流動負債等	3,574	3,875
流動負債合計	6,516	6,874
長期借入金	2,857	2,142
リース負債(非流動)	348	473
その他の非流動負債等	453	592
非流動負債合計	3,659	3,208
負債合計	10,176	10,083
資本金・資本剰余金等	9,008	9,025
利益剰余金	4,431	5,453
資本合計	13,440	14,478
負債及び資本合計	23,617	24,562

- ・ 当社グループののれんは、主に2019年11月にワールドコーポレーションの株式を取得したことにより生じたもの
- ・ IFRSに則り、毎期、帳簿価額と回収可能価額を比較する減損テストを実施
- ・ 回収可能価額が帳簿価額を十分に上回っており、減損の兆候はなし

のれんの内訳

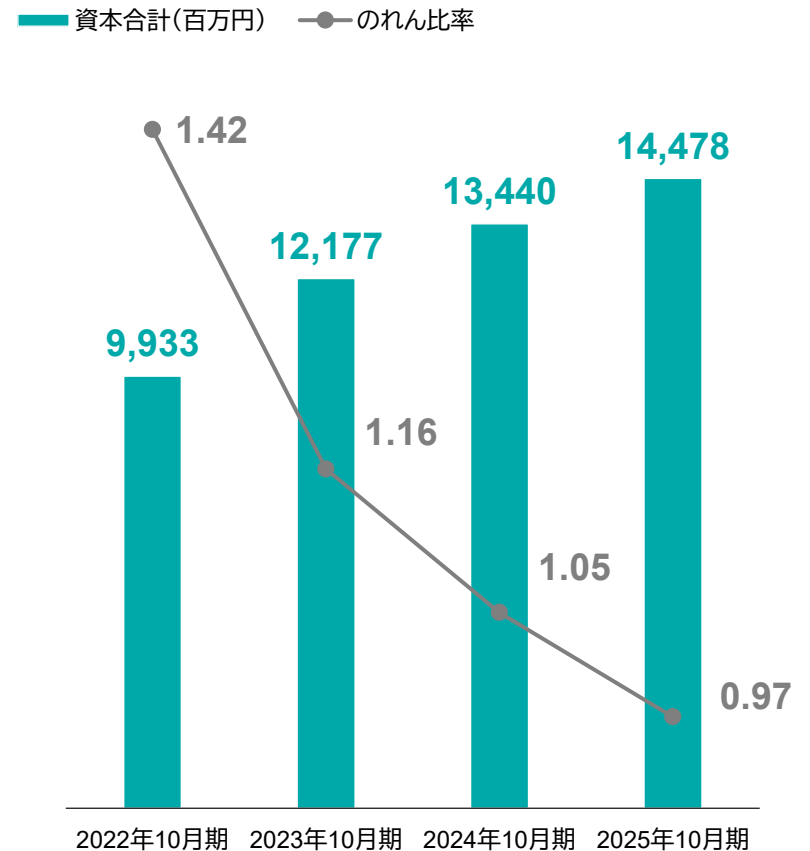
のれんの帳簿簿価	
単位:百万円	
建設ソリューション事業	12,988
ITソリューション事業	1,086
のれん合計	14,074

減損テスト*1



*1) 2024年10月末を基準日とする減損テストの結果を示す。各資金生成単位における帳簿価額(のれん以外も含む)と回収可能価額を比較。

資本合計とのれん比率*2の推移



*2) のれん/資本合計

- 税引前利益の増加により、営業活動によるキャッシュフローは**+23.0億円**
- オフィス拡張や研修施設拡張により、投資活動によるキャッシュフローは**△2.0億円**
- 長期借入金の返済や配当金の支払いなどにより、財務活動によるキャッシュフローは**△19.2億円**

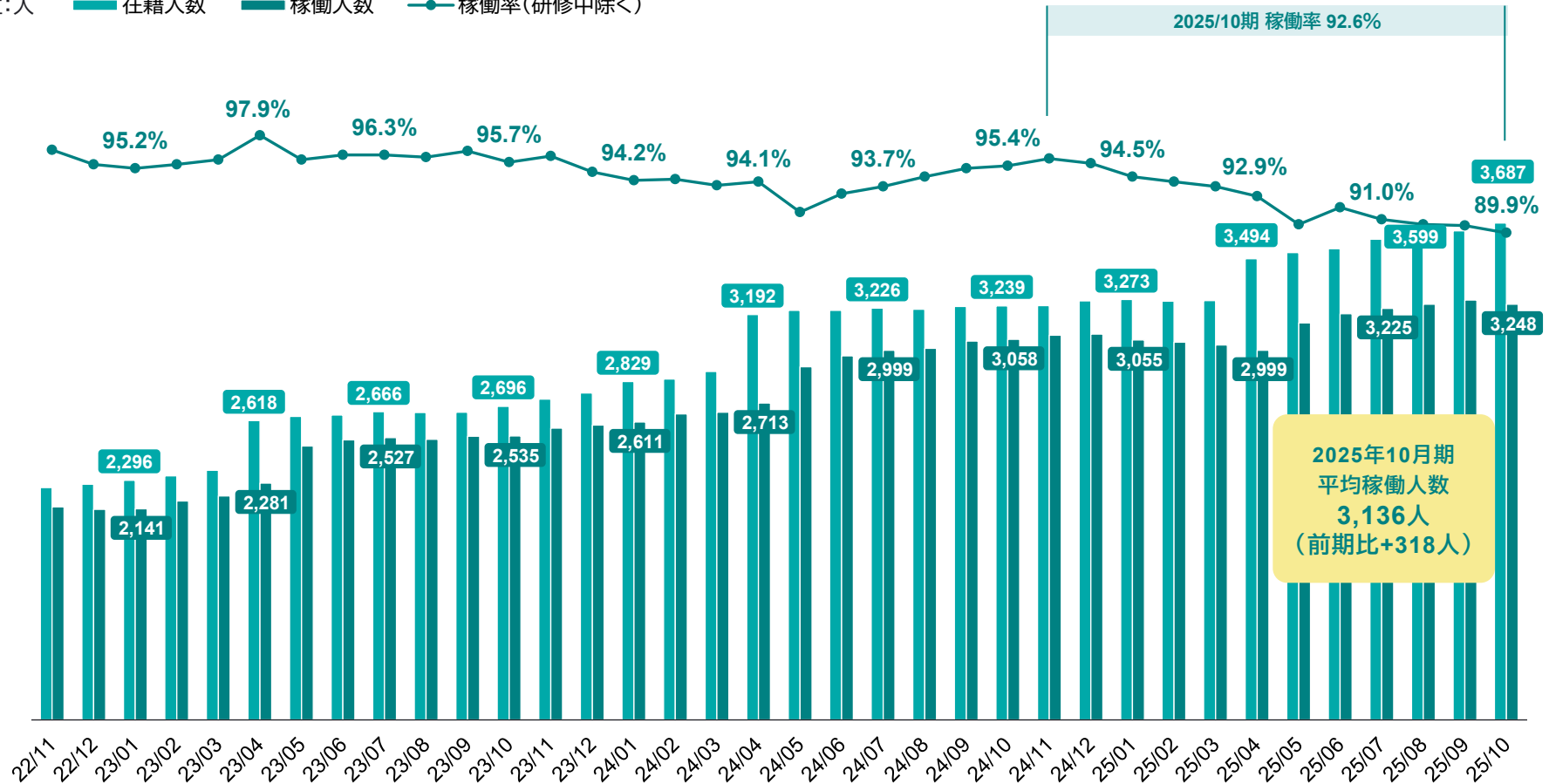
	2024年10月期	2025年10月期	
税引前利益	3,059	2,758	使用権資産償却含む(IFRS)
減価償却費	261	285	
営業債権の増(△)減(+)	△437	△155	
未払費用の増(+)/減(△)	179	149	
利息支払	△50	△75	
法人所得税等	△915	△894	研修施設の拡張に伴う 有形固定資産の取得など
その他	213	230	
営業活動によるCF	2,310	2,298	
有形固定資産の取得による支出	△14	△57	オフィス拡張に伴う差入保証金の 計上
その他の金融資産の取得(△)回収(+)	7	△102	
その他	△0	△38	
投資活動によるCF	△6	△197	
フリー・キャッシュ・フロー	2,303	2,100	
長期借入金の返済による支出	△714	△714	オフィス賃借料など(IFRS)
リース負債の返済による支出	△219	△227	
株式の発行による収入	293	23	
配当金の支払額	△1,228	△1,004	
その他	△1	△1	
財務活動によるCF	△1,870	△1,923	全国建設人材協会の連結(1Qより)
現金及び現金同等物増減額	433	177	
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	127	

2025年10月期 主要KPIの推移

- 25年10月の技術者在籍人数は**3,687人(前期比+448人)**、稼働人数は**3,248人(同+190人)**に増加
- 通期の平均稼働人数は前期比**318人**増加し**3,136人**となったが、稼働率(研修生除く)は**92.6%(同△1.6pt)**となり前期を下回る
- プロジェクトの切り替え時の待機者の発生や首都圏での営業苦戦などにより、稼働人数・稼働率は想定を下回る

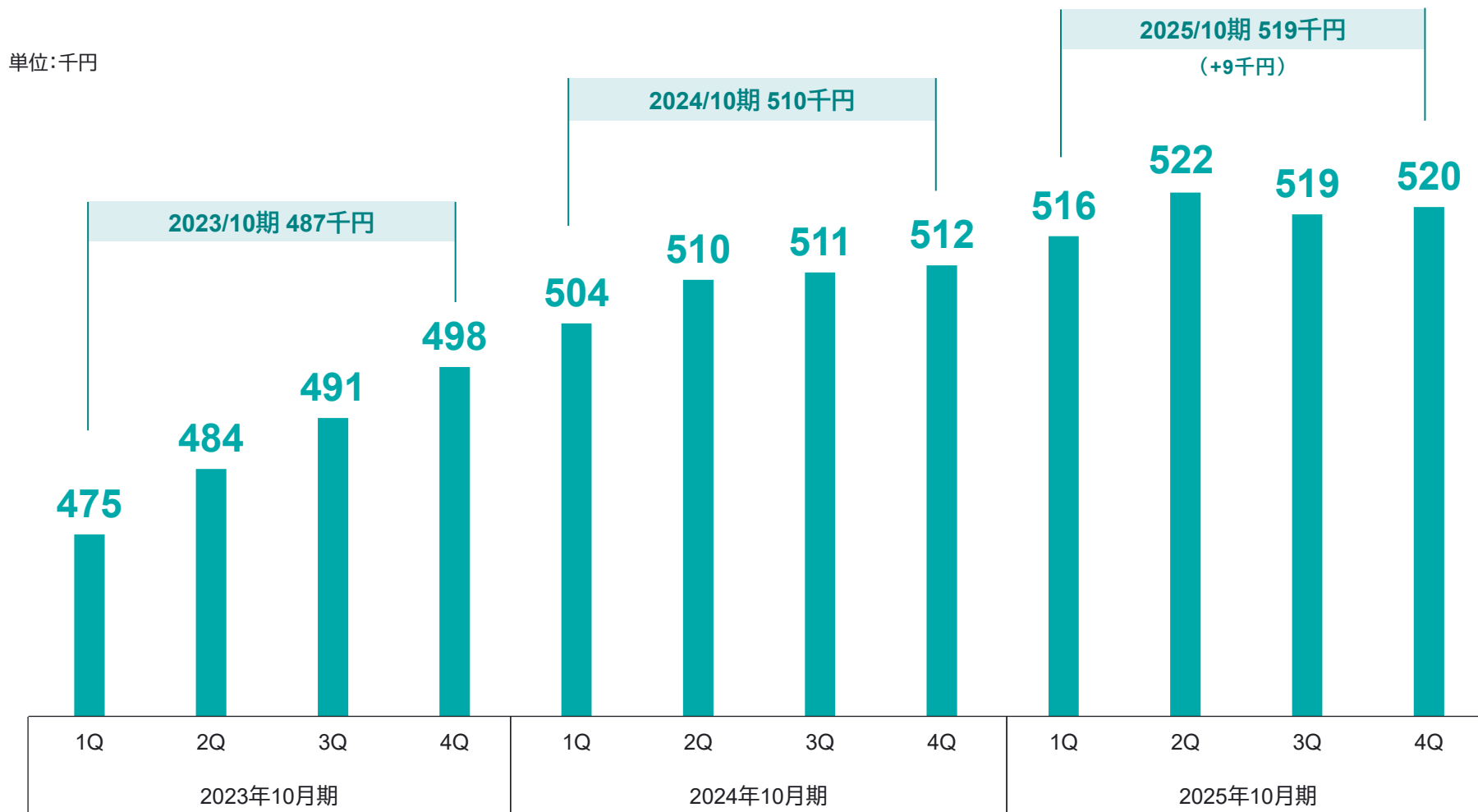
在籍人数・稼働人数・稼働率の推移

単位:人 在籍人数 稼働人数 稼働率(研修中除く)



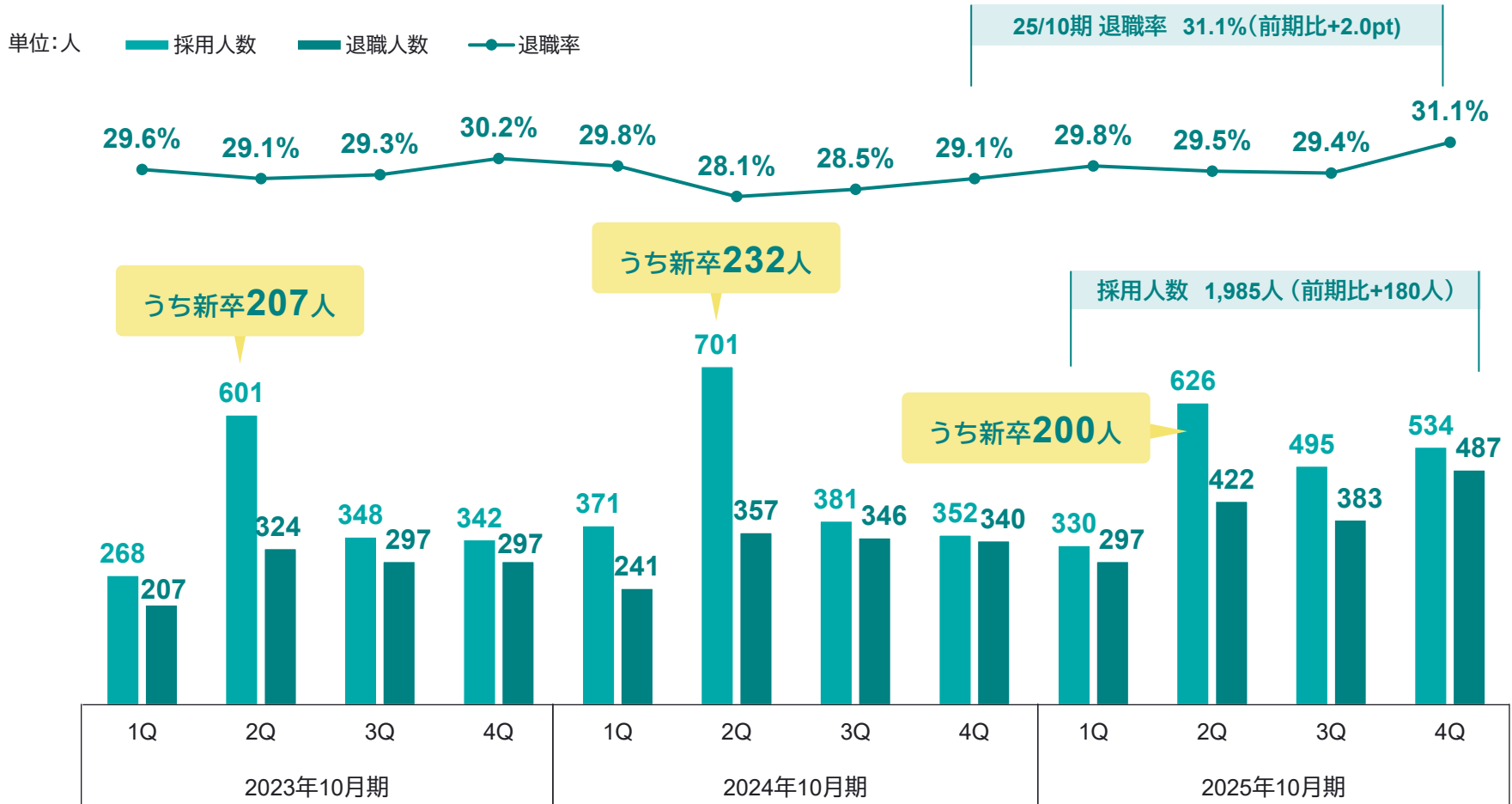
- 未経験者採用の進展が契約単価を押し下げたが、単価交渉に加え、低単価案件が通常の契約単価に回復したことにより、4Qの契約単価は上昇
- 通期の平均契約単価は、**519千円(前年同期比+9千円)**

契約単価の推移



- 3Qに引き続き積極的な採用投資が奏功し、4Qの採用活動は堅調に推移
- 4Qの採用人数は**534人(前年同期比+182人)**となり、通期の採用人数は**前期比180人増加の1,985人**
- 退職率^{*1}の改善に向け、技術者の早期フォローなど各種施策を継続的に実施するも稼働率低迷を受け退職率は上昇

四半期推移



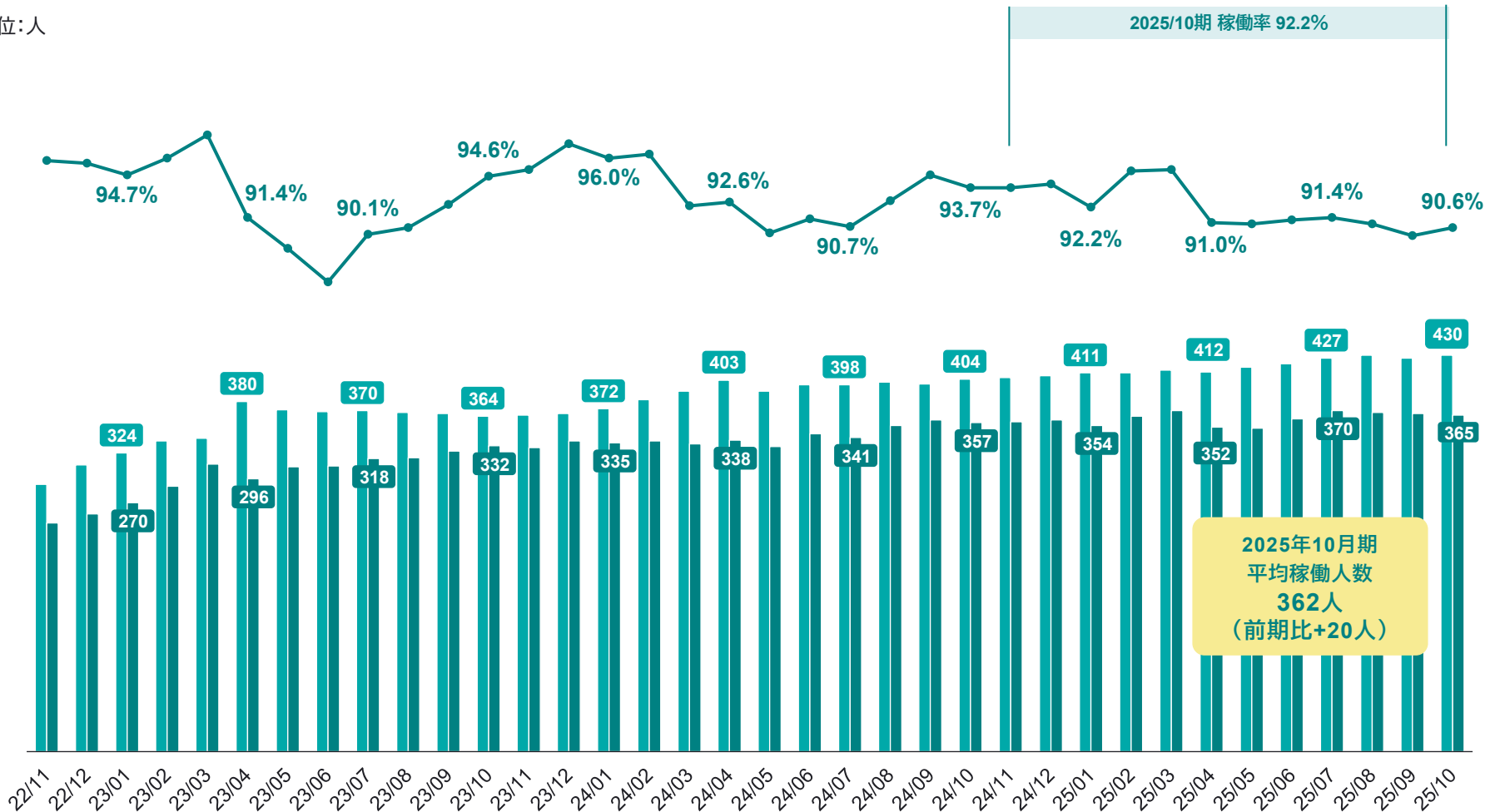
(*1) 退職率=過去12ヶ月間の退職者数/(12ヶ月前の月末在籍人数+過去12ヶ月間の採用者数)

- 25年10月の在籍人数は**430人**(前期比+26人)、稼働人数は**365人**(同+8人)に増加
- 通期の平均稼働人数は前期比**20人**増加し**362人**となったが、稼働率(研修生除く)は**92.2%**

在籍人数・稼働人数・稼働率の推移

■ 在籍人数
 ■ 稼働人数
 ● 稼働率(研修中除く)

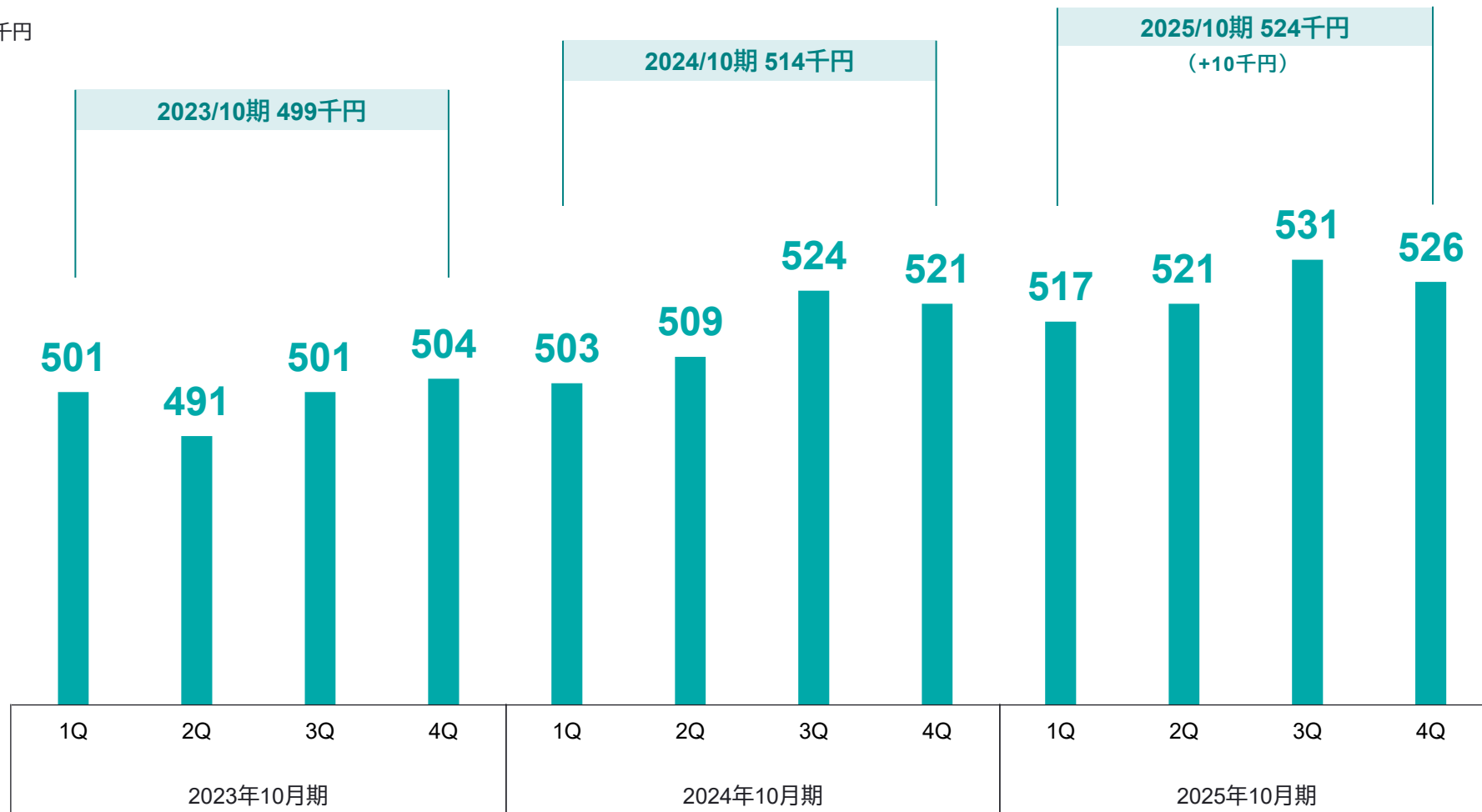
単位:人



- 通期の平均契約単価は524千円となり、前期の平均値から+10千円増加
- システム開発における上流工程案件の獲得を背景に契約単価が上昇

契約単価の推移

単位:千円

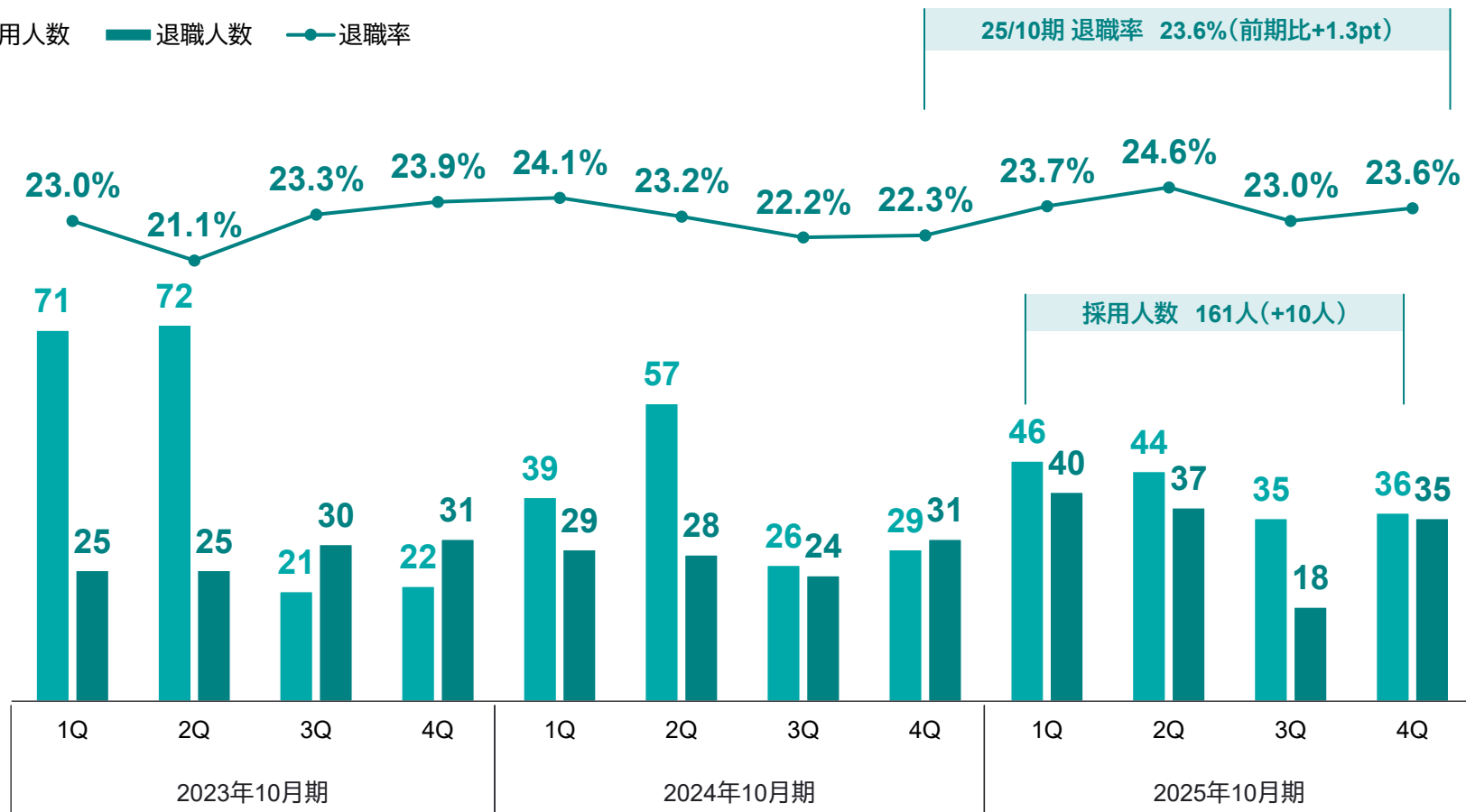


- 通期の採用人数は、**161人(前期比+10人)**
- 2025年10月度の退職率*1は**23.6%**となり、前期比+1.3%上昇

四半期推移

単位:人

採用人数 退職人数 退職率

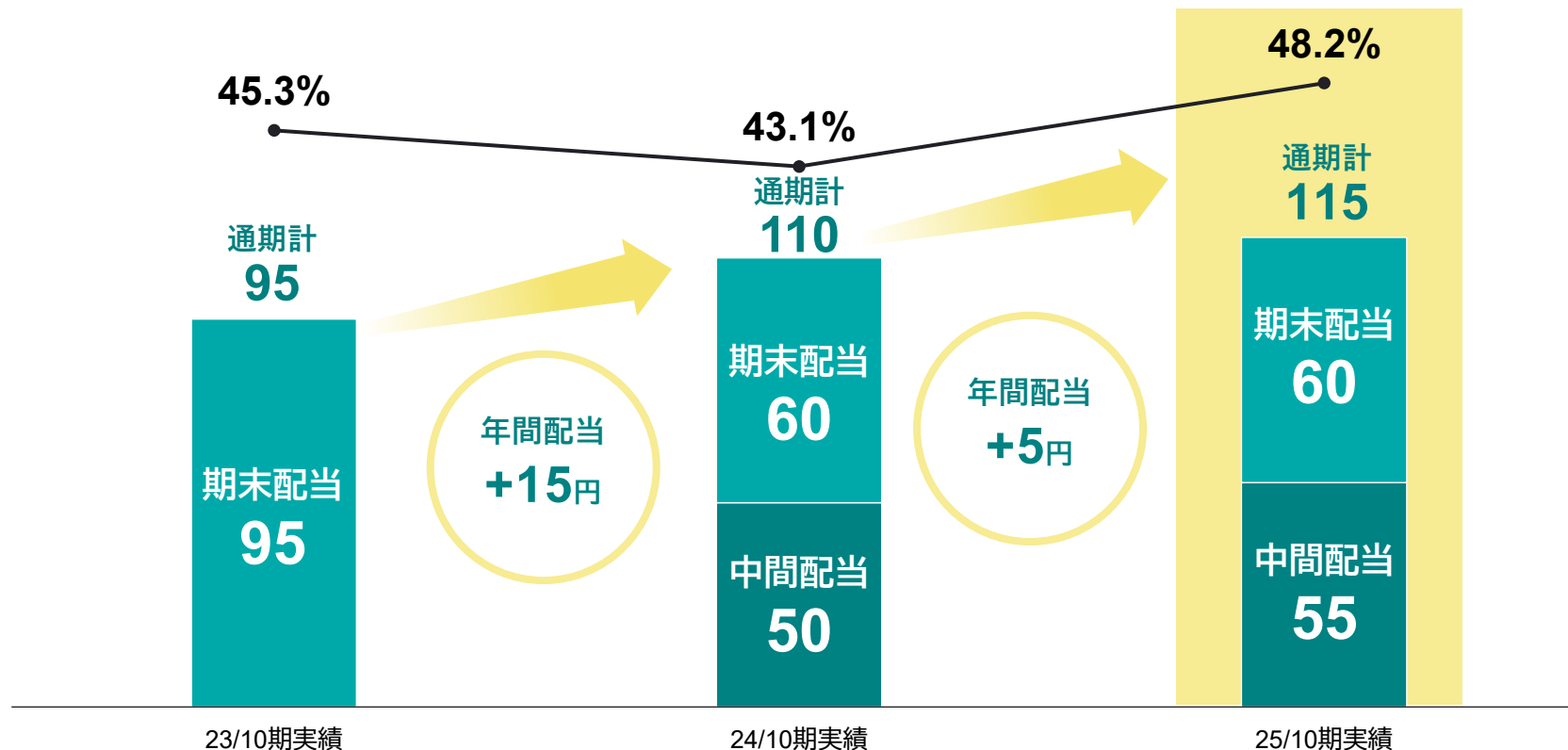


(*1) 退職率=過去12ヶ月間の退職者数/(12ヶ月前の月末在籍人数+過去12ヶ月間の採用者数)

2025年10月期 株主還元

- 2025年10月期の期末配当は当初計画どおり、**60.00円**
- 中間配当**55.00円**とあわせて、年間配当は**115.00円**(前期比**+5.00円**)
- 基本的1株当たり当期利益に対する配当性向は**48.2%**

■ 中間配当 ■ 期末配当 ● 配当性向
 単位:円



本資料は、関連情報の開示のみを目的として株式会社ナレルグループ(以下「当社」といいます。)が作成したものであり、米国、日本国又はそれ以外の一切の法域における有価証券の買付け又は売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。

本資料に記載されている当社以外の企業等に関する情報及び第三者の作成に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、そのデータ・指標等の正確性・適切性等について、当社は独自の検証は行っておらず、何ら保証するものではありません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」又は「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。

